

造影 CT 検査 説明書

【 造影剤とは 】

造影剤を注射して検査をすると、造影剤を使用しない時と比べて、血管や腫瘍などの病気が見やすくなり、正確な診断につながります。使用する造影剤の量や種類は、体重、検査部位や目的に応じて、検査担当医によって決められます。造影剤は、多くの場合、副作用はありませんが、人によっては、下記に示すようなアレルギー等の副作用が出現することがありますので、医師の説明をよくお聞きいただき、造影剤の使用に同意される場合は、同意書にご署名をお願いいたします。

【 造影剤の副作用 】

造影剤注射時の副作用には以下のようなものが報告されています。

- ・ 軽微: かゆみ、発疹、吐き気、嘔吐、胃の不快感、息切れ、不整脈など。 頻度: 約 3%
 - ・ 重篤: 意識消失、血圧低下、呼吸困難など。 頻度: 0.004~0.04%
 - ・ 死亡: 造影剤の投与によって、約 16 年間で 185 人の死亡の報告があります。 頻度: 0.00025~0.0006%
(ただし、造影剤との因果関係が証明されていない症例も含まれます。)
 - ・ 腎機能障害: 腎機能低下がある場合は急性腎不全を発症する可能性があります。
 - ・ 遅発性副作用: 検査終了後 1 時間から 1 週間後にじんましん、かゆみ、むくみ、吐き気、頭痛などの症状が現れることがあります。症状は軽く、治療を必要とするものは少ないといわれています。 頻度: 約 0.6~8%
- なお、造影剤を注射すると、個人差はありますが**体が熱く感じる**ことがあります。変な味やにおいを感じることもあります。たいいていは検査が終わるにつれてこのような症状は消えていくので心配はいりません。

【 副作用が出現した時の処置 】

- ・ 症状が軽い場合やすぐに消失した場合は、経過観察をします。
 - ・ 中等度以上では、アドレナリンの注射や副腎皮質ホルモン(ステロイド)等の点滴など、症状に合わせた治療・処置を行います。
 - ・ 稀ではありますが、症状が重い場合は、救命処置を含む治療や入院が必要な場合があります。
- なお、検査の際には十分な注意をはらい、副作用が出現した場合の準備や対策には万全を期しています。

【 造影剤の血管外漏出（注射もれ） 】

注射針を留置して血液が戻ることを確認してから造影剤の注入を行っていますが、稀に、造影剤が皮下で血管の外に漏れることがあります(血管外漏出)。造影 CT 時の血管外漏出の頻度は 0.3~0.9%と報告されています。

注入が始まって痛みが強くなってきたら、すぐに検査担当医や看護師に伝えてください。

- ・ 血管外漏出時の症状
注射した部位を中心に腫れや痛みがあります。検査後、数日は腫れが大きくなる場合がありますが、ほとんどの場合、時間と共に消失します。稀に、長引く腫れ、痛みの増強、皮膚の水疱形成のほか、重症の場合は潰瘍形成や組織、血管、神経の壊死や機能障害が報告されています。
- ・ 血管外漏出時の処置
ほとんどの場合は軽症であり、安静と湿布で次第に軽快します。
稀に、腫れや痛みなどの症状が強い場合は、組織障害の軽減のために、冷罨法(湿布や氷で冷やす処置)や消炎鎮痛剤の内服、皮膚の症状にはステロイド軟膏等の塗布や水疱の穿刺排液を行うことがあり、また、皮膚科・形成外科で切開等の処置を必要とすることがあります。

造影 CT 検査 確認書・同意書

今回の検査日： 年 月 日 体重 kg (測定日： 年 月 日)

過去の造影検査の有無： ☐ あり ☐ なし ☐ 不明

種類： 造影 CT、造影 MRI、経静脈性尿路造影、血管造影、胆嚢造影、その他()

造影剤の副作用歴の有無と症状： ☐ あり ☐ なし ☐ 不明

副作用の起こった検査の種類： 造影 CT、造影 MRI、経静脈性尿路造影、血管造影、胆嚢造影、その他()

症状： 咳・くしゃみ・のどの不快感・かゆみ・じんま疹・発疹・吐き気・嘔吐・腹痛・頭痛・めまい・動悸・不整脈・

呼吸困難・血圧低下・意識レベルの低下・ショック・その他その他() (あてはまるものに○)

* 過去に造影剤の副作用歴がある場合、造影剤の使用で約 11%に副作用が発現したという報告があります。

腎機能： 採血日 年 月 日 eGFR ml/min

* 造影検査日の半年以内の腎機能評価が必須です。

* eGFR 45ml/min 以下では造影 CT 検査前後の輸液負荷を推奨。eGFR 30ml/min 以下では造影剤は原則禁忌。

ビグアナイド系糖尿病用薬の内服： ☐ あり (内服中止期間： 月 日～ 月 日) ☐ なし

* ビグアナイド系糖尿病用薬を内服している場合は、造影剤の使用で稀に乳酸アシドーシスを生じることがあります。

* ありの場合は、「検査日前 2 日 + 検査日 + 検査日後 2 日の計 5 日間」の休薬が必要です。緊急検査の場合は、検査日後 2 日は休薬し、その後、腎機能の悪化や乳酸アシドーシスの徴候が無いことを確認してから再開してください。

ヨード(イソジン、ICG 等)アレルギー： ☐ あり ☐ なし

気管支喘息： ☐ あり ☐ なし

* 気管支喘息のある方は、ない方に比べて、約 10 倍、副作用が出現しやすいという報告があります。

その他 (該当するものに○)： 食物・薬剤アレルギー(品名：)、

じんま疹、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、重篤な心疾患、重篤な肝障害、重篤な甲状腺疾患、マクログロブリン血症、多発性骨髄腫、褐色細胞腫

アレルギー体質の方は副作用の可能性が高くなります。中でも、気管支喘息の方や過去に造影剤の副作用のあった方は重篤な副作用の危険性が高いとされ、原則として、造影剤は使用しませんが、病状によって造影が必要と判断される場合は、代替検査の有無や造影のリスクとベネフィットを十分に検討してください。

年 月 日 説明医署名 同席者署名

大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 総長殿

以上の造影剤使用に関する問診、及び、造影検査の必要性和副作用について、十分な説明を受け、内容を理解しましたので、検査の実施に同意いたします。

年 月 日 患者署名 (代理人の場合の続柄)

※未成年者は親権者、本人が署名不可能な場合は代理人が署名のこと

※検査時、造影剤の副作用の危険性が高いと検査担当医が判断した場合には、同意されていても、造影剤を使用しない場合があります。